

電気通信サービスに係る内外価格差調査 —平成28年度調査結果（概要）—

平成29年7月
総務省

調査概要

東京などの6都市における、携帯電話（スマートフォン（MNO）、スマートフォン（MVNO）、フィーチャーフォン）、FTTH、固定電話の利用料金について比較調査を実施。

◇調査対象都市（各国の主要都市において比較）

東京、ニューヨーク、ロンドン、パリ、デュッセルドルフ、ソウル

◇調査対象事業者

各都市でシェアの高い事業者（スマートフォン（MNO）は上位3事業者、その他は最もシェアの高い事業者）

◇調査方法（公開情報、事業者ヒアリング等で確認）

- ①携帯電話（スマートフォン（MNO）、スマートフォン（MVNO）、フィーチャーフォン）
月当たりの利用形態から想定される利用モデルに基づき比較
- ②FTTH
回線使用料、宅内設備レンタル料、ISP料による比較
- ③固定電話
月当たりの利用形態から想定される利用モデルに基づき比較

◇調査時期

原則として、平成29年3月時点

◇為替レート

OECDが公表する購買力平価（平成28年）を用いて比較

1. スマートフォン (MNO)

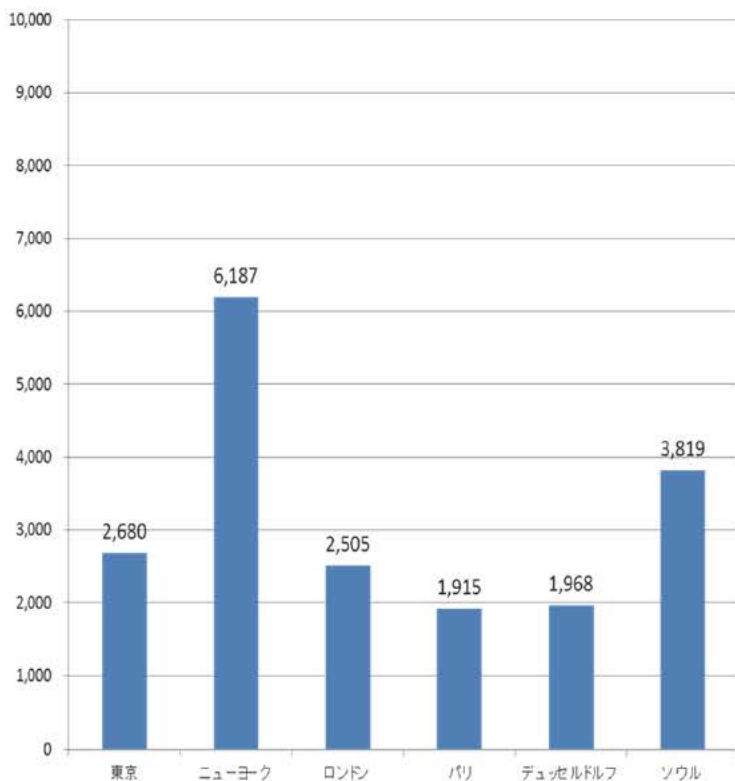
- シェア上位3事業者のうち最も安いポストペイド型の一般利用者向け通信料金（新規契約の場合）について、通話時間・データ通信量等の利用モデル（※）に係る月々の支払額を比較。

（※）日本の利用実態を基にしたモデル（通話月は70分、メール利用は月148通、データ通信量は月2GB/月5GB/月20GB）で比較。

- 東京の通信料金は、2GB、5GBでは中位の水準、20GBでは高い水準となっている。

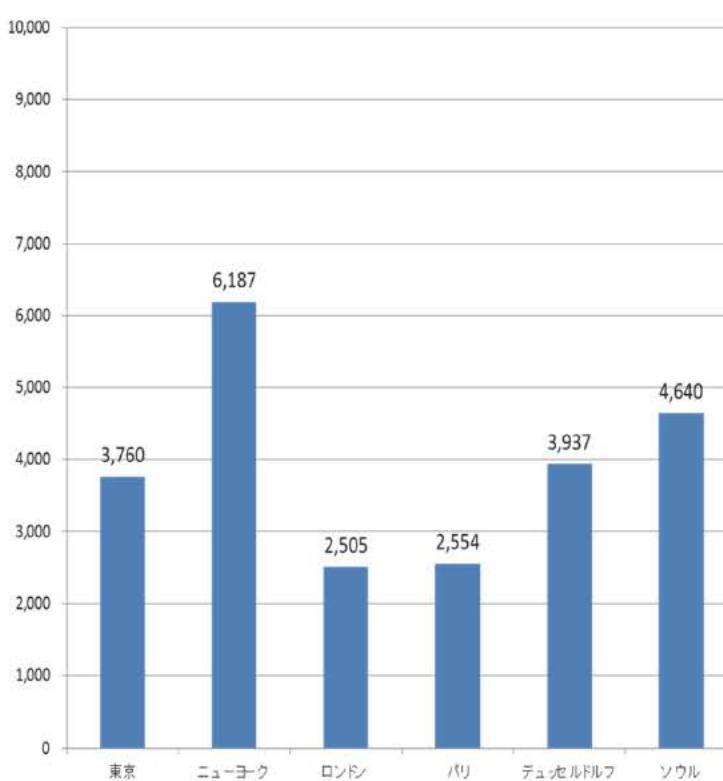
データ容量月2GB

(税込 単位：円)



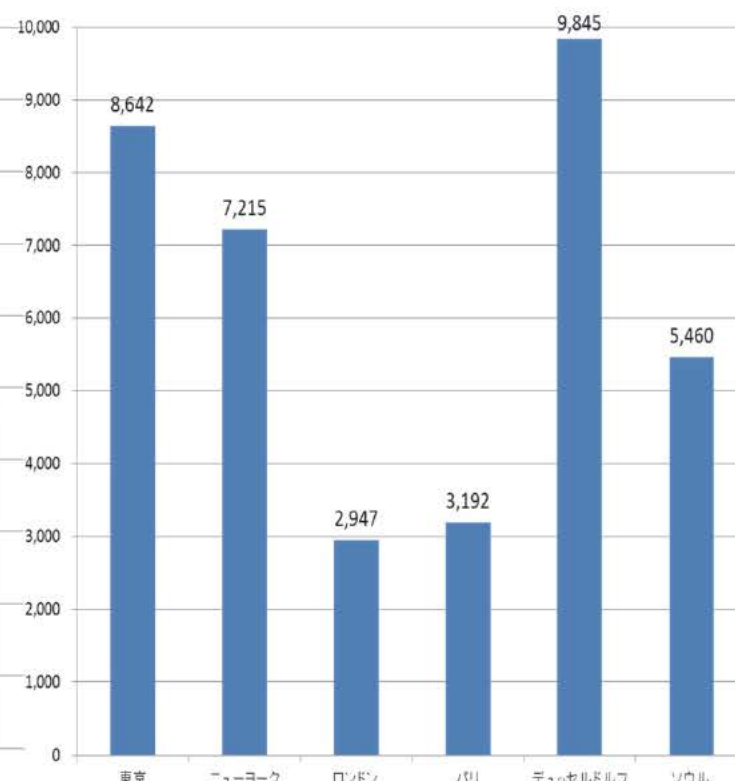
データ容量月5GB

(税込 単位：円)



データ容量月20GB

(税込 単位：円)



2. スマートフォン (MVNO)

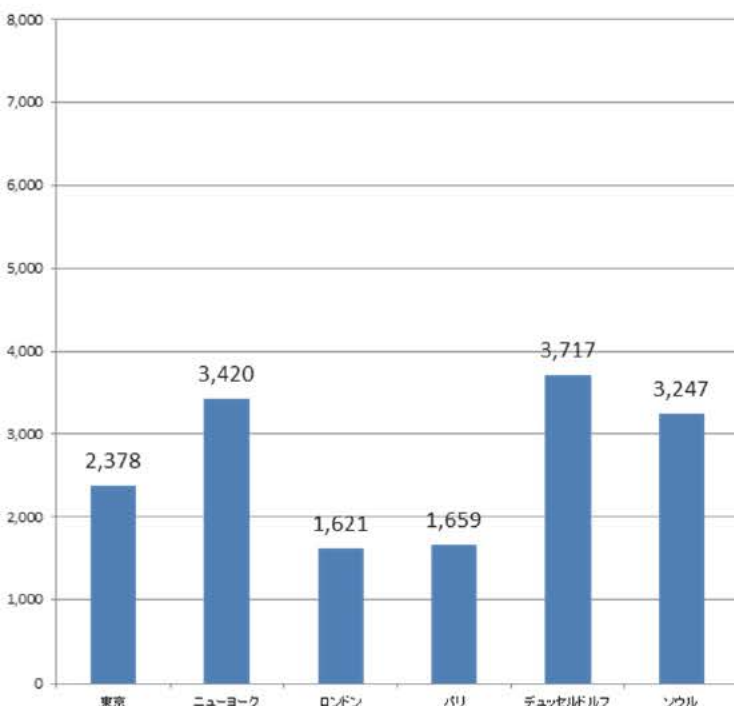
○ **ポストペイド型の一般利用者向け通信料金（新規契約の場合）について、通話時間・データ通信量等の利用モデル（※）に係る月々の支払額を比較。**

（※）日本の利用実態を基にしたモデル（通話は月70分、メール利用は月148通、データ通信量は月2GB/月5GB/月20GB）で比較。

○ **東京の支払額は、中位の水準となっている。**

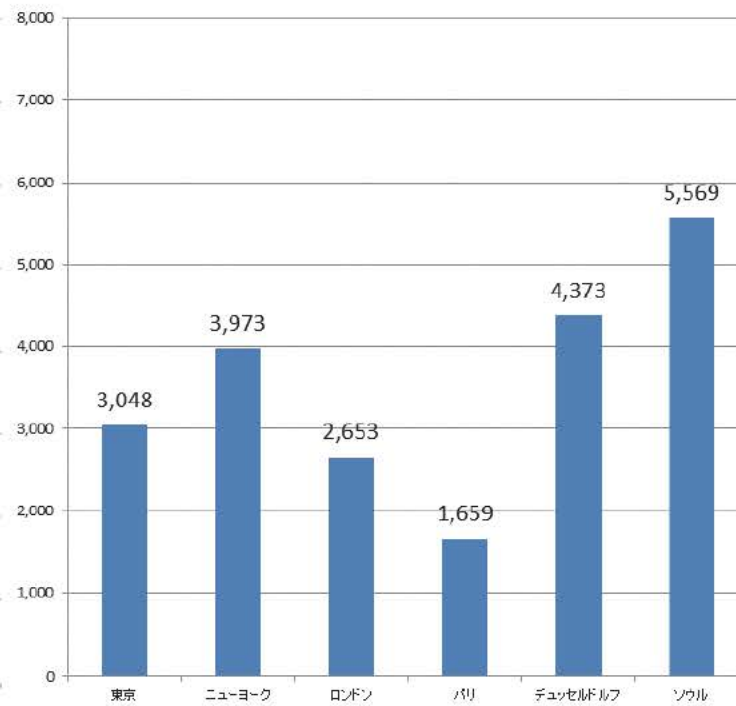
データ容量月2GB

(税込 単位：円)



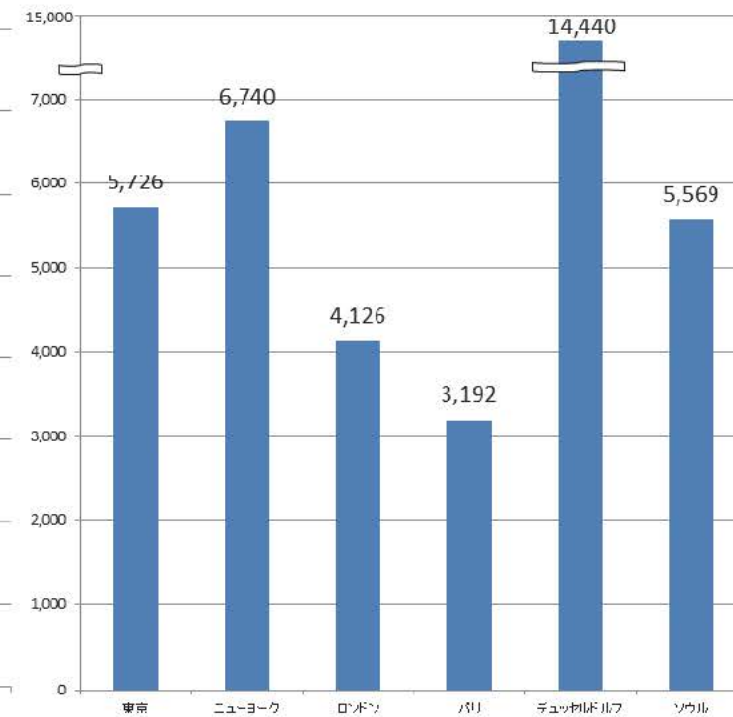
データ容量月5GB

(税込 単位：円)



データ容量月20GB

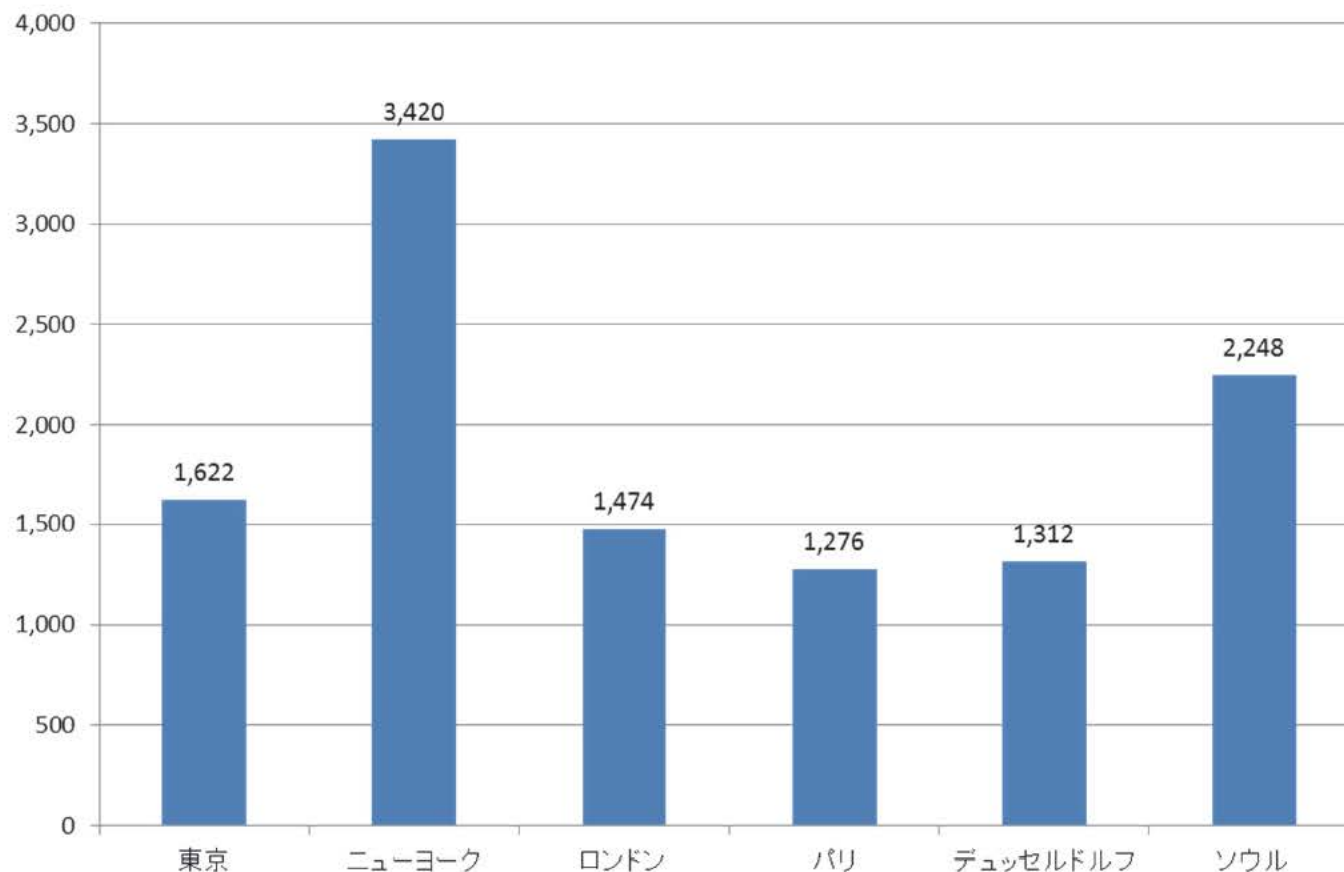
(税込 単位：円)



3. フィーチャーフォン

- 海外におけるフィーチャーフォンの利用形態をみると、SMSの利用率が高いことから、音声のみの利用を前提として、通話の平均発信分数（月70分）に基づき支払額を比較。
- 東京の通信料金は、ニューヨークを除く各都市と並んで低廉な水準となっている。

（税込 単位：円）



（注1）ニューヨークは、通話無制限となっている。

（注2）ロンドンは、フィーチャーフォン向けの料金プランはプリペイドのみであるため、プリペイドプランを採用。

4. FTTH

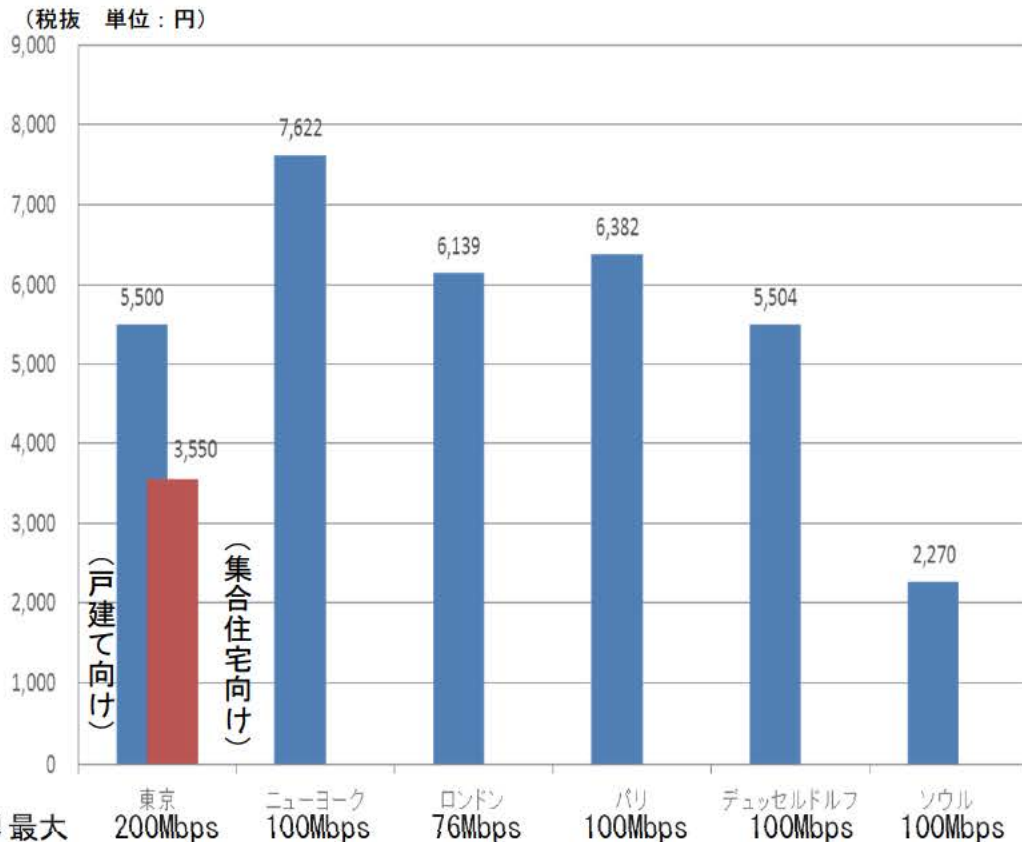
○ FTTH回線を用いたインターネット接続サービスに係る料金について、回線使用料（※）、宅内設備レンタル料、ISP料の月額料金を合算して比較。

（※）住宅向け料金プランで下りの最大通信速度が100Mbpsのプランで比較（100Mbpsのプランが無い場合は、100Mbpsに最も近いプランを使用。）。

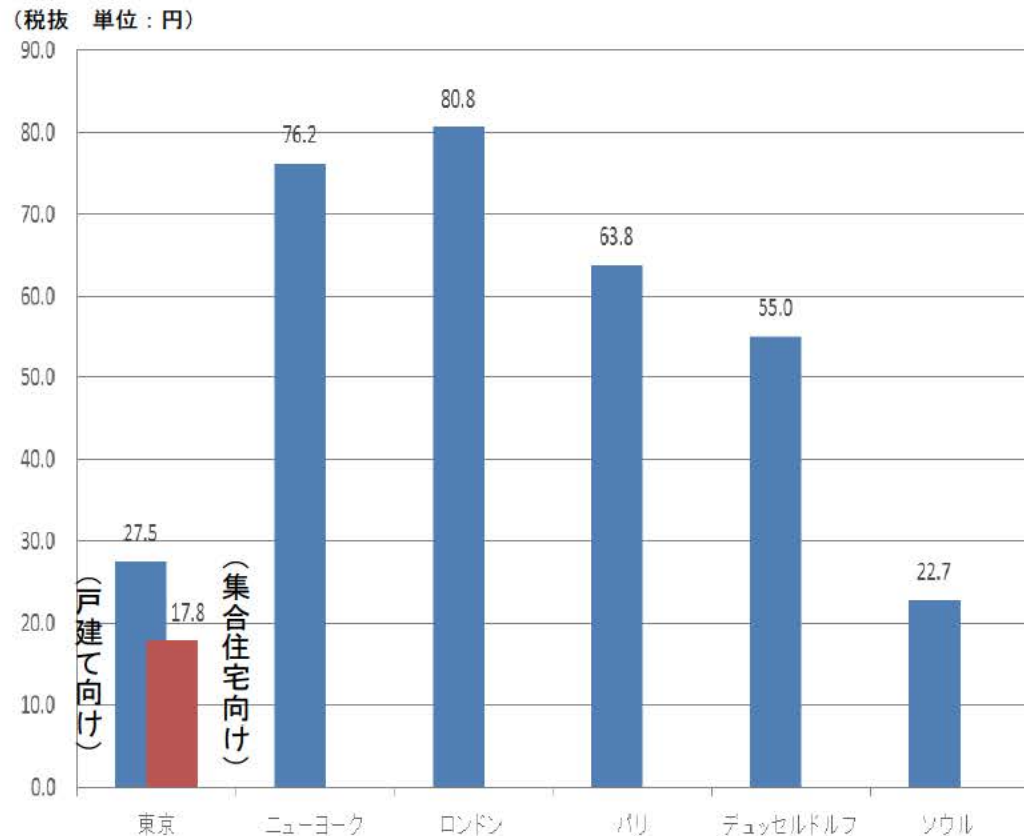
○ 月額料金は、ソウルに次いで安くなっている。

○ 下り通信速度の1Mbpsあたりの料金を見ると、東京の集合住宅向けが最も低廉になっている。

月額料金（FTTH回線使用料+宅内設備レンタル料+ISP料）



1Mbpsあたりの料金

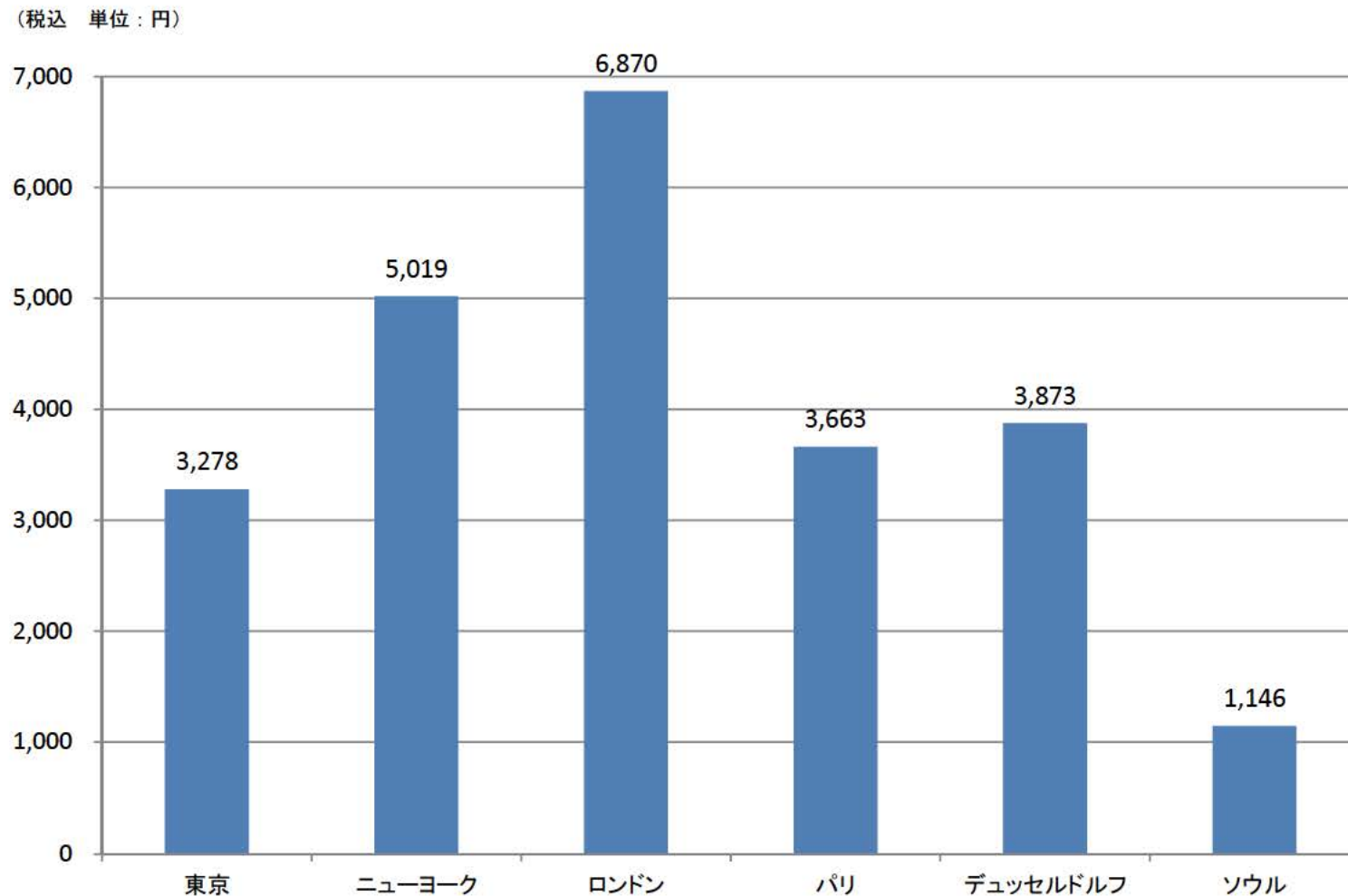


5. 固定電話

- 各都市でのユニバーサルサービスに相当するアナログ固定電話の利用モデル（※）に係る月々の支払額を比較。

（※）OECDが各国の住宅用の電話料金を比較するために用いているモデル（月平均で、市内：38回 計110分、市外：10回 計47分、携帯電話：14回 計26分の発信）で比較。

- 東京の通信料金は、パリ、デュッセルドルフと同水準。



調査対象事業者

		東京	ニューヨーク	ロンドン	パリ	デュッセルドルフ	ソウル
スマートフォン (MNO) <small>※下線は調査結果で採用した最も安いプランを提供する事業者</small>	①	<u>NTTドコモ</u> (20GB)	<u>Verizon Wireless</u> (2GB、5GB)	Telefonica UK	<u>Orange</u> (2GB)	<u>Telefonica Germany</u> (2GB、5GB)	SK Telecom
	②	KDDI	AT&T Wireless	Everything Everywhere	SFR	Telekom Germany	KT
	③	<u>ソフトバンク</u> (2GB、5GB)	<u>T-Mobile US</u> (20GB)	<u>Vodafone UK</u> (2GB、5GB、20GB)	<u>Bouygues Telecom</u> (5GB、20GB)	<u>Vodafone Germany</u> (20GB)	<u>LG Uplus</u> (2GB、5GB、20GB)
スマートフォン (MVNO)		インターネット イニシアティブ	Virgin Mobile USA	Tesco Mobile	NRJ mobile	Freenet	SK Telink
フィーチャーフォン		NTTドコモ	Verizon Wireless	Telefonica UK	Orange	Telefonica Germany	SK Telecom
FTTH		NTT東日本	Verizon Communications	BT Group	Orange	Telekom Germany	KT
固定電話		NTT東日本	Verizon Communications	BT Group	Orange	Telekom Germany	KT

※平成28年12月時点のシェアを元に選定

比較に用いた購買力平価（単位：円）

	米国 (ドル)	英国 (ポンド)	フランス (ユーロ)	ドイツ (ユーロ)	韓国 (ウォン)
購買力平価※(平成28年)	101.6	147.4	127.7	131.3	0.114

※購買力平価(PPP:Purchasing Power Parity): <OECD.stat, PPPs and exchange rates, PPP for GDP 2016>

OECDが公表する平成28年の数値を採用。貿易などの国際取引や投機の影響・変動を取り除き、経済実態に即した比較が可能。短期的なレートの変動を排し、長期的なレートの目安となり、より生活実感に近い値が求められるメリットがある。